

テーマ展

昔の道具と暮らし～自然の素材がいっぱい～

あわら市郷土歴史資料館
企画展示ゾーンほか

1.はじめに

現在はプラスチックや金属製の素材でできた道具が主流ですが、昔は身近にある自然の素材を使った道具がたくさんありました。本テーマ展では、**藁・竹・木**に注目して、それらの素材を使った道具と暮らしをご紹介します。

2.身近な素材 藁とその道具

農閑期になると、農家では米の収穫の際に、副産物として大量に採れる「藁」を利用してムシロ、俵、草履などの道具を作りました。

藁道具を作るには、まず脱穀した藁を「藁すぐり」等を使ってすべ（葉）を取り、道具によっては加工しやすいように藁打ちを行いました。やわらかく丈夫になった藁を土間や小屋、**囲炉裏端**で編みました。

作られた道具には、藁の保温性を利用したお櫃入れや、防寒用の履物がありました。

また、藁のやわらかい特徴を生かし、体を保護するための背中あて、穀物を保存する入れ物など様々な用途に使われました。

しかし、昭和30年以降ゴムやビニール製品の普及により、草履などの履物はゴム製に、電化製品の普及によりお櫃入れは保温ジャーに変わるなど道具が使われなくなると、それまで生活の中で継承されてきた道具を作る技術は消えていきました。



動力脱穀機で脱穀する生徒
1943年『福井県立坂井農学校 卒業記念』より転載



草履
昭和38～42年
坂井市三国町宿か



テゴ
昭和40年代
福井県内

福井県立歴史博物館提供

◎主な藁の道具

①ツマカケ(ツマゴ)

裸足や足袋の上から着用して爪先を覆い、草鞋と組み合わせて履くことで、指先の冷えを防いだり保護したりするための履物です。

大野市では、つまかけを「シャクナミ」と呼んでいました。先端が丸い「マルグツ」もその一種で、表面の中央に割れ目があり、足を深く入れることができる工夫が施されています。旧和泉村などの山間部では裸足に直接つけて雪草鞋と組み合わせて使いました。

他にも坂井市では「ユキツマサキオオイ」と呼び、地下足袋やゴム足袋の上から着用した事例があり、加賀市では「アシナカジョウリ」と呼んで、田んぼの中に入るときに泥がくっつかないようにするために使っていました。



シャクナミ(マルグツ)
大野市博物館提供

②いずみ

仕事で家を離れるときに中に布団、浴衣などを入れ赤ちゃんを寝かせておく籠です。働く女性が職場に置いて寝かせておくこともありました。オムツをあてずに灰や糶殻、藁などを敷いておく事例があります。

また、赤ちゃんが大きくなると、ご飯を入れたお櫃を保温する入れ物にすることもありました。



③背中あて

薪や炭、稲などを担ぐときに背中にかけて体を保護するための道具です。肩や背中への負担を和らげました。



背中あてをする女性（小浜市上根来）
『福井県史資料編 15 民俗』より転載

④俵

米や炭などを保管する入れ物です。物がこぼれないように菰を巻いて二重俵にすることもありました。



米俵（昭和 40 年代 福井県内）
福井県立歴史博物館提供

2.身近な素材 竹とその道具

軽くて丈夫な竹は、食べ物の水切りや穀物をふるい分ける「ざる」、炊いたお米の保存や物を運搬する「かご」など、家庭や農業、漁業など様々な場面で暮らしに役立ててきました。

しかし、昭和 30 年代以降安くて丈夫なプラスチックやビニール製品の普及に加え、電化製品の普及や農作業の機械化に伴い生活様式が変わり、それらの道具は次第に使われなくなっていました。



竹細工を作る兵士
奥出氏提供

◎竹の主な道具

①箕

金津地区の主に脇出区周辺では、身近にあった竹田川の女竹を利用して箕を作りました。この辺りの箕は、女竹の他に藤の皮が編み込まれ、先端には丈夫な桜の皮が使われていることが特徴で、明治時代末には金津の名産品として二万個も生産していました。

しかし、昭和 24 年からの竹田川の改修によって材料が少なくなったことや、プラスチック製品の普及により次第に作られなくなりました。



②飯籠

夏に炊いたご飯を保存する入れ物です。中に藁座を敷き、その上に布などで包んだご飯を入れ、風通しが良いところにおいたり、井戸へ吊るしておきました。



③竹製行李

山や畑仕事へ行くときに握り飯などを入れた弁当箱です。竹で編まれた弁当箱は通気性が良いので、食べ物が腐りにくい入れ物でした。



3.身近な素材 木とその道具

木は、種類によって特徴が異なり、道具に適した木材が使われました。例えば、桶や樽などを作るときは、木目がまっすぐで割りやすい杉の木材を、下駄や箆笥などを作るときには、軽くてやわらかく割れにくい桐の木材を使用しました。

福井の一例として、椀や盆などを作るときは、やわらかくて加工しやすい柎や朴の木材を用いましたが、冠婚葬祭などで使う上質な碗や盆は木目が美しく硬くて耐久性のある櫟の木材を使用しました。

木の道具は、飲食物を入れる器や農作業の道具などに使われ、日常生活を支えました。磁器、プラスチック製品の普及や農作業の機械化などにより使われなくなった道具もありますが、現在においても使用され続けている素材といえるでしょう。



櫟製の杵と臼

◎主な木の道具

①お膳

日常の食事や冠婚葬祭、寄合などの時に一人ひとりの食器と食べ物を載せた台です。

食事を終えた後は、きちんと食器棚に片付けていました。



②角樽

お祝い用のお酒を入れた入れ物です。角には「松」「鶴」といった縁起物が記されており、持ち運びしやすいように堤手があります。酒屋がお祝い時に容器ごと貸し出しました。



あわら市郷土歴史資料館

テーマ展「昔の道具と暮らし～自然の素材がいっぱい～」

会 期：1月15日（水）～8月30日（日）

開館時間：9:30～18:00（最終入館は17:30）

休 館 日：毎週月曜日・毎月第4木曜日（これらの日が祝日の場合はその翌日）

お問合せ：電話 0776-73-5158 e-mail :maibun@city.awara.lg.jp